

令和6年度 札幌国際芸術祭実行委員会 事業計画

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

1 SIAF2024 効果検証

来場者数や経済波及効果などの定量的な成果に加え、SIAF スクール、イニシアティブ・パートナーなどの新たな取組みや、来場者アンケート結果など定性的な成果のほか、事務局運営体制などを含めた課題の抽出を行い、次回SIAFの開催方針へ継承する。

2 (仮称) SIAF2027 開催準備

(1) 基本方針の決定

ディレクター候補者選定、開催時期や主要会場など、SIAF2027の基本方針を決定する。

(2) 実施体制の構築

SIAF2027開催に向け、キュレーターやデザイナー、専門スタッフの選定など、実施体制の構築を図る。

(3) 開催計画の検討

テーマやアーティスト、主要プログラムなどの検討を行う。

3 SIAF 普及事業

(1) SIAF スクール

SIAF2024でふむふむサポーター（ボランティア）として参加いただいた人材との継続的な協力関係のもと、鑑賞サポートプログラム等を実施する。また、本市教育委員会との連携のもと、主に市内小中学生を対象とした出前授業等学校連携プログラムを実施する。

(2) SIAF ラボ

SIAF2024での取組みをより有機的に推進していくため、SIAFスクールと

連携したコンテンツ開発や、本祭に向けたテクニカルサポートなどを地元において継続的に担うことができる体制づくりを検討する。また、札幌の地域特性を活かした新たな芸術表現を探究するリサーチや作品制作の継続実施についても併せて検討する。

(3) 企業連携プログラム

会期外も継続的に SIAF への機運を醸成するとともに、芸術祭を契機としてアートだけにとどまらない多様な価値を創出していくことを目指し、SIAF2024 連携企業のネットワークやノウハウを活用したプログラムの実施を検討する。

(4) 冬季展開

SIAF2027 への機運醸成、上記(1)~(3)の取組みの成果や地元人材のノウハウの本祭への継承、また同時期開催イベント等との相互連携を目的とした冬季展開を行う。

4 広報プロモーション

(1) WEB や SNS を活用した情報発信

SIAF 及びアートへの興味関心を高めるため、WEB や SNS を活用した情報発信を継続的に実施する。

(2) 広報連携

本市アートイベントやさっぽろ雪まつり等、イベントと連携した広報展開を実施する。

(3) SIAF ラウンジにおける情報発信

札幌市資料館内にある情報発信拠点「SIAF ラウンジ」を活用し、観光客等の来場者に対し、SIAF に関する情報を提供する。